

第10回 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会 議事概要

日 時	令和7年3月25日（火）10:00～11:15
会 場	アーバンネット仙台中央ビル 4階 カンファレンス A・B
議 題	1. 開 会 2. 未来ビジョン最終案 3. 意見交換 4. 取り組み紹介 5. 閉 会
配布資料	資料 資料1 未来ビジョン最終案（概要版） 資料2 中間案からの変更点等 資料3 未来ビジョン最終案 資料4 未来ビジョン中間案に関するアンケート結果 資料5 取り組み紹介（3D都市モデル体験会） 資料6 取り組み紹介（非公開ミーティングの報告）

○未来ビジョン最終案に関する主な意見等

（委員意見）

- ・今回のビジョン検討においては、経済活動を行う地権者の視点での内容は出せておらず、消費者、生活者視点の内容となっている。具体性に欠けているが、現時点ではこんなところだろう。
- ・さくら野、ORIX側にそれぞれ建物が建てば、仙台の顔としての印象、性格は大きく変わるということを経済局も理解のうえ、苦勞して案を出したと思う。
- ・今後具体化していくうえで、空間設計、空間運営のWGに期待したい。

（委員意見）

- ・先にご発言した委員と全く同意見である。
- ・このエリアは協議会を設立し、様々な方と今後について検討できるエリアであるという認識を改めて踏まえると、公共空間での事業、取り組みは未来ビジョンを実現していくためにも必要ではないかと考える。

(委員意見)

- ・ビジョンに特段意見はない。現状できるところでまとまったと思う。
- ・ビジョンの発信にあたり、冊子作成、配布、WEB に載せましたでは弱いと思う。仙台の駅前がこれから発展していく、いろんな方がこのエリアはポテンシャルが高いから「投資したい、行きたい」となり、市民が期待を持てることが重要。
- ・市民の方が分からないところで冊子配布、WEB 掲載、少人数のイベントを行うのでは、市民の期待は醸成されない。
- ・七夕まつりなど大きなイベントの際に市民の意識を醸成する取組みが必要ではないか。

(事務局)

- ・ビジョンの実現に向けて、人を巻き込む、機運の醸成が必要だと考えている。
- ・「ビジョンは抽象的度が高く、分かりづらい」とは言われることもあるため、センター・オブ・ヒューマニティがどのようなものかは、やってみせるしかないと考えている。
- ・様々な方が自分の目線から見て考えるセンター・オブ・ヒューマニティは1つではないと考える。
- ・やって見せていく際は、物理的な場所も考えていく必要がある。
- ・大きなイベントについては、実施する必要があるれば検討していきたい。

(委員意見)

- ・未来ビジョンは、協議会の意見を踏まえてまとめるものなので、事務局、座長で最終的にまとめてほしい。
- ・5年、10年経過すると、見返した際に違和感がある部分が出てくるかもしれない。
- ・まずは未来ビジョンをきっかけとして空間づくりの検討を行う際は、WG での金融機関の巻き込みを含め、具体的に進めてほしい。
- ・機運醸成、周知していくことは重要。
- ・所属先の関係者も動向に興味深く見ているため、この協議会での未来ビジョン検討の取組みについて各所で情報周知していくべきであると考えている。折を見て情報を発信していきたい。

(委員意見)

- ・とりまとめに感謝する。
- ・全体の方向としての位置づけと認識。
- ・具体的に何をしていくのかは、市の方針、民間事業者の提案を踏まえてより形にしていくものだと考える。
- ・この未来ビジョンは上位的なもので、非常に大事なものと感じている
- ・未来ビジョンの概念図（p 25）として、グラデーション・ポジティブの心構え、ヒューマニティを

大切にすることは非常に面白いことである。特にヒューマニティを大切にすることはコンパスで示されているのは、個人的なことであるが青葉通駅前エリアに様々な人が向きたくて、行きたくなるというメッセージ性を感じた。

・ヒューマニティが生まれる光景は様々なシチュエーションがあり、このように空間を使ってほしいと感じるが、お酒を飲む光景は良いと思う一方で、路上で飲むことを肯定するように感じる。否定的に捉えられることもあり、協議会としてこの未来ビジョンを策定することから気になるところでもある。もちろん、問題ないということであれば構わない

(事務局)

・ヒューマニティを大切にすることはコンパスの絵は、まちづくりの方向性を示すものである。グラデーション・ポジティブはその心構えとして掲げており、仙台市でも取り組んでいるダイバーシティ推進を拡張したものである。

・ダイバーシティは、人の多様性を謳っているものであり、このエリアは人の多様性に最も富んだ場所である。それに加えてこのエリアには、経済的な価値、文化的な価値、環境的な価値、さらに仙台の顔としての象徴的な価値など、さまざまな価値が重なり合っている。

・こうした価値をいかすにあたっては、ただ並べるだけでは意味をなさず、混ぜ合わせる、掛け合わせるによって、初めて価値が生まれると考えている。そして、その方向性を示すものが、「ヒューマニティを大切にすることは」である。

・この考え方により、様々な人にとって居心地の良い居場所が生まれ、人とつながり、そのつながりから多様な価値の掛け合わせが生まれることで、新しい価値を創出することができると考えている。

・もちろん、このエリアに様々な人が集まってほしいという思いはあるが、それ以上に重要なのは、「目指す多様性をどのようにいかすのか」という方向性を共有することであり、そのためにこそ、ヒューマニティを大切にしていこうという考え方が必要である。

・ヒューマニティが生まれる光景の中での飲酒については、どのような運営が行われるかが重要になる。飲酒に関して問題となるのは、ゴミの放置や騒音などである。今回、空間づくりとあわせて空間運営も重要であると考えており、現在取り組んでいるコミュニティづくりなど空間運営にも力を入れていく予定である。空間運営によりゴミが捨てにくい空気感を出しながら、飲酒もできる空間にしていきたいと考えているため、このままのシーンとして掲載したいと考える。

(委員意見)

・今後どうしていくのか？といった意見は最もである。

・現段階では抽象度は高いが、一般の方に分かりやすくどう伝えていくかを意識してまとめた。

・来年度以降はWGを立ち上げて活動していくことや、これまで関わってきた民間の方々とのつながりづくり等を通して、次の段階で具体化に向けた議論ができればと考えている。

- ・ヒューマニティを大切にする考え方の解釈については、様々な意見が出てきて良いと考えており、今後たくさん議論できるきっかけとなるためにも情報発信を行っていただければ考える。

(委員意見)

- ・具体性が決められない抽象度の高い状況でのとりまとめとなったが、分かりやすくまとめることができたと考えている。

○ 3D都市モデル体験会、非公開ミーティングの開催報告に関する委員意見

(委員意見)

- ・空間設計を行っていくことには疑問を持っているが、一方で取組みを進めていくにあたって3Dの技術を活用することは、自分たちの思い描くことをすぐに表現できるため有意義であり、非常に良いと考える。

- ・こういった技術を活用しながら取組みを進めてほしい。また、作ったものに対して非公開ミーティングにて意見を膨らませていくことも有意義である。

- ・未来ビジョンは分かりやすくまとめていただいた。

以上